

平成24年度事務事業評価シート（23年度実施事業分）

事業番号	150101	中期総合計画主要施策番号	3-10,4-01,4-02	担当課	部・課	警察本部 少年課	
事業名	子ども安全総合対策事業				内 線	4518	
					E-mail	police-seiankikaku@pref.nagano.lg.jp	
実施期間	H19	～	根拠法令等	警察法、少年法、児童福祉法、少年警察活動規則			
実施方法	直接実施					国庫・ 県単	国庫補助事業・ 県単独事業

事業の概要等	目的(必要性)	子どもが被害者となる凶悪犯罪等の未然防止に向けた諸対策及び少年非行防止対策、いじめ問題対策等を推進する。
	対象	少年を主とした県民
	目指すべき姿	将来を担う子どもの非行防止と、安全で安心して暮らせる地域社会の実現
	事業内容	非行防止教室の実施(警察官が、学校や地域に出向き、少年の非行防止について講話を行い啓発に努める。) スクールサポーターの配置(非行防止に関する指導、街頭補導活動、少年相談、学校生活に関する防犯指導、犯罪情報の発信等) 少年補導活動の強化(少年警察ボランティア協会と連携を図りながら、地域に密着した活動を展開する。) 有害環境の浄化の推進(インターネット利用による少年サポート活動、フィルタリング100%普及を目指した活動) 万引き防止等対策(万引防止対策協議会の開催) 少年保護活動(少年の非行防止、健全育成、家出防止等) 少年健全育成副読本の作成・配布(少年非行に歯止めをかけるため、小学校を対象にリーフレットを配布) 薬物乱用防止活動(薬物乱用防止教室の開催等)

事業コスト	区分	単位	22年度	23年度	24年度	23年度事業費の主な内訳
	最終予算額 (A)	千円	24,801	24,746	24,967	・報酬:12,527千円(スクールサポーター報酬)
	決算額 (B)	千円	23,072	22,694	-	・共済費:1,832千円(スクールサポーター社会保険料)
	B(H23はA)のうち一般財源	千円	18,857	18,947	20,988	・報償費:4,710千円 旅費:445千円
	概算人件費	人	0.01	0.01	0.01	・需用費:2,091千円(消耗品費、印刷製本費等)
	概算事業費 (B(H23はA) + C)	千円	23,155	24,829	25,050	・役務費:644千円(通信運搬費等)
	概算事業費 (B(H23はA) + C)	千円	23,155	24,829	25,050	・委託料:363千円 使用料:66千円
事業実績	成果指標・活動指標内容	単位	22年度	23年度	24年度(見込)	左記以外のH23年度実績
	スクールサポーター配置人数(活)	人	7	7	7	スクールサポーター制度の継続実施(県下7警察署へ7人配置)
	県下の少年被害認知件数(1～12月)(成)	件	3,638	3,210	-	少年警察ボランティア協会員(951人)と連携した、街頭補導活動、少年を暴走族から守る活動等の実施
	県下の粗暴犯被害少年総数(1～12月)(成)	件	131	106	-	インターネット上の有害環境浄化活動
	<効率指標(単位当りコスト等)> スクールサポーターの配置	千円/人	3,308	3,547	3,579	万引防止対策協議会(加盟店約3,200店)と連携し、小学校6年生を対象とした万引防止啓発冊子の作成・配付、広報啓発ポスター等の作成配布を実施 子どもに対する声掛け事案等犯罪情報のメール配信(効率指標 算出式) 概算事業費/スクールサポーター配置数

事業の成果	事業の目標(H23)	事業成果・評価	評価区分
	子どもが被害者となる事件を未然に防止する。 少年非行防止・健全育成活動の推進を図る。 非行少年の立ち直り支援活動の推進を図る。	警察官と担任教師が協働でクラス単位で行う、「チームティーチング方式」による非行防止教室の開催、薬物乱用防止広報車向を活用しての薬物乱用防止教室の開催により、規範意識の醸成を図った。 少年警察ボランティアとの協働による街頭補導活動、立ち直り支援活動及び広報啓発活動を推進した。 県下の少年被害認知件数、粗暴犯被害少年数ともに減少傾向にあることから、少年警察ボランティア等と連携した、街頭補導活動を強化して、少年の非行防止と健全育成を図る。	b 期待どおり

事業の課題	区分	判定・説明				
	事業ニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	子どもに対する声掛け事案等は依然として発生しており、これらの未然防止を求める声が依然として高い状況にある。 少年の非行防止と健全育成の推進や安全確保は、警察が全うする責務である。
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		
	事業改善(有効性・効率性)の余地	余地なし	当面余地なし	余地あり		

総合分析等	総合分析(今後の課題、取組方針等)	平成23年は、子どもに対する声掛け事案の検挙・解決件数が倍増し、子どもが被害に遭う性的犯罪が減少するなど一定の成果が見られるが、いまだ子どもが被害者となる犯罪が後を絶たない現状にある。 従って、少年警察ボランティアをはじめとした団体や地域と連携、協働するなど、重層的な防犯ネットワークを構築して、「犯罪の起きにくい社会づくり」を一層強力に推進する。
	特記事項	